

自然は人が少しだけ手を入れて！

●歴史、文化、そして自然を堪能した旅、その5！
 きょうも「久喜の春を楽しむ旅」の最終コーナー
 を綴ってまいりましょう。



〔久喜市役所〕



〔久喜市総合文化会館へ〕



〔彩の国景観賞受賞時の写真〕



〔武井家屋敷林(自然環境保全地)〕



〔新川用水路を挟んで自然林〕

街中で中島撫山
 や中島敦の足跡(案
 内看板、撫山宅跡地、
 御嶽山)で学び、旧
 家(寒梅酒造や榎本
 家)を拝見し、少し
 郊外に出ました。久
 喜市役所周辺です。
 11 時前に到着した
 のは、1987 年(昭
 和 62)に建築された
「総合文化会館」で、
 この建物は 1988 年
 の**「彩の国景観賞」**
 を受賞しています。
 ここでトイレ休憩
 と水分補給を行いま
 した。

★久喜市総合文化
 会館★

この種の大きな単
 体の建築施設は独
 立した景観維持に
 なりがちですが、既
 存の久喜市役所の
 前庭との巧みな一
 体化を成功させた
 ものです。広場は、
 諸種の催しができ
 るよう乾いた空間
 とし、建物を取り囲
 む豊かな植栽によ
 るバランスのとれ
 た空間により、市民
 に憩いの場を提供
 しています。建物
 も独特の曲線を生
 かし、周辺の緑に溶
 け込むよう淡いグ
 リーンのタイルで
 まとめています。

* *

水分補給をして元気を取り戻し、屋敷林が自然環
 境保全地区第 1 号に指定されている**「武井家」**、さら
 に近年植林を行った**「総合運動公園」**へ向かいます。

★武井家屋敷林保全地区(久喜地区)★

○指定：平成 23 年 8 月 29 日

○面積：2330 平方メートル

○特色：樹林の高木層は、シラカシやケヤキなど、
 関東平野の屋敷林に多く見られる樹種から構成され
 ています。植物の確認種数は 84 種と、小面積で
 環境の変化が乏しい中、比較的多くの種が確認され
 ました。鳥類調査では、確認された種は少なかった。
 しかし、冬季調査時に鳥類の餌資源となるシラカシ
 やスタジイなどのどんぐりが豊富に見られました。
 鳥類の越冬の場、採餌環境としての適正は高い可能
 性があります。昆虫類調査で確認された種は、すべ
 て関東地方の平野部では一般的な種でしたが、調査
 回数や調査地面積を考慮すると比較的多くの種が確
 認されました。また、調査地周辺が住宅地や水田な
 ど開けた環境である中、小規模ながらもまとまった
 樹林があることを反映して、樹林環境を好む種が多
 く確認されたことも特徴的であると考えられます。

【久喜市ホームページより】

* *

2000 m²を超える屋敷林があることに驚くととも
 に、屋敷林の樹種が建築資材、燃料、食糧として活
 用するための植栽であることを改めて認識しました。
 続いて江面にある「総合運動公園」へ。ここでは、
 横浜国大名誉教授の宮脇昭先生の指導を仰ぎ 2010
 年(平成 22 年)3 月に植樹した林を見学しました。

★植樹した森★

ここは、市民ボラ
 ンティア 244 名
 の協力を得て、久
 喜市総合運動公園
 内の市民グラウン
 ドの東側(2,350
 m²)及び南側(約
 650 m²)に 1 m²当
 たり種類の違い
 樹木 3 本を植え、
 合計で 10,530 本
 の植樹を行いました。
 植樹に際しては、
 宮脇 昭先生の
 提唱する土地本来
 の潜在自然植生の
 木群を中心に、そ



〔7年で育った森、看板の先〕



〔奥貫会長(久喜麗和会)〕

その森を構成する多数の種類を混ぜて植樹する
 「混植・密植型植樹」という手法を用いました。こ
 の方法によって、それまでは何百年もかかると言わ
 れていた森の再生が、数十年という単位で成功する
 といわれています。【久喜市の環境平成 25 年度版
 (24 年度報告)「自然林の育成／植樹祭」より】

* *

ガイドを務めてくださった奥貫会長からは、「植樹祭当日は、きょうのように雨模様で植栽も大変でしたが、1万本余りのさまざまな種類の木を植えることができました。7年でこのように立派に成長しています。大きな銀杏の木は公共工事に伴って移植した木ですが、久喜市のシンボルが銀杏なのでここに植えました。久喜市（菖蒲地区）は日本の公園の父と言われる本多静六博士が生まれた場所であり、いずれは明治神宮のような森ができればと期待しています。」と述べられました。



【「なごみの湯」冷えた体には・・・】



【江面村下早見の「明倫館」があった場所は梨畑に、「中島撫山・敦ゆかりの地を歩く」travel.jp より引用】

総合運動公園を離れて、天然温泉の「なごみの湯」、「明倫館跡地」に向かいます。久喜市の名物の一つである「梨」の畑が見えて来ました。

* *

★ 明倫館 ★

明倫館は、明治26年（1893）12月4日、埼玉県知事から私立学校設置許可があたえられ、本科4年課程、研究科3年課程で地域青年の為に中等教育機関として、宮内翁助、中島端

蔵（中島敦の伯父、斗南）によって開設されました。昭和10年（1935）4月に廃校になるまでの43年間、在籍者は4,500名（内卒業生700名余）にも達し、地域の中堅者を養成したことは高く評価されています。学籍簿、生徒名簿等が残されており、学校の内容もわかることから、地域教育の資料として貴重なものです。【久喜市ホームページ】

* *

「明倫館跡地」は現在梨畑となっているところだそうです。そして、田園風景を眺めて久喜市役所裏を通過して「久喜市公文書館」に到着しました。



【市役所隣の久喜市公文書館】

ここで先日、記録した早川八郎左衛門正紀が創設した「遷善館の石碑」を見学しました。この石碑をもって久喜市の学びの旅を終えることになりました。

* *

◆ 懇親会は「蘭月」、「カラオケ」に

約2時間半のコースでしたが、雨中の散策で皆さん少々疲れた様子です。12時20分、予定通り昼食・懇親会場の日本料理店「蘭月」に到着しました。

会場には、久喜麗和会の顧問で久喜市長を務められていらっしゃる田中暄二様（浦高16回卒）もお越しいただき賑やかに懇親を深めることができました。

根本 崇春日部地区浦高会会長

（高16回）の挨拶では「きょうは奥貫会長のご案内で久喜を巡った訳ですが、文化のとても豊かな街だということを改めて知りました。また、3000㎡の自然林を造ったり、街路樹にさまざまな樹種を植えて鳥たちが集まるような素晴らしい工夫が見られました。田中市長や奥貫会長の知恵の結集だと思います。ありがとうございました。」

田中市長からは、「皆さん、ようこそ久喜市へお越しくださいました。根本さんとは同期で、市長経験は根本さんの方が私よりも早く長い訳ですが、さまざまな場面でご一緒する機会がありました。浦高同窓会では、昨年副会長を務めさせていただきさまざまな会合に出席していますが、皆さん浦高が大好きな方ばかりで驚いています。木村会長の下でさまざまな事業が進められておりますので、これからも同窓会活動にご協力ください。きょうは春日部地区浦高会と久喜麗和会との懇親を深める旅とのこと、これからもよろしく願いいたします。」とのご挨拶。

1時間半の懇親会、美味しい料理とお酒をいただき、最後は岩本利夫春日部地区浦高会幹事（高22回応援団長）の指揮で校歌斉唱とエールで締め括りました。二次会は15名でカラオケへ。おもてなしに感謝！【完】



【久喜麗和会顧問の田中暄二市長（左側）も参加いただいた懇親会、挨拶は奥貫会長】



【根本春日部地区浦高会会長のご挨拶。写真手前左が田中市長、右が奥貫会長】



【最後は校歌斉唱、エールで】